

# (10)東中筋小学校

学 校 長 門 田 典 弘  
校内研究代表者 中 屋 光 代

## 1. 研究主題

『伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成』  
～自分の考えを持ち、とも学びの充実を図る～

## 2. 研究主題設定の理由

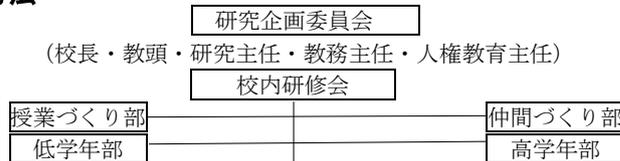
本校の児童は、素直で、与えられた課題に対して真面目に取り組む。年度末に行ったCRTテストの結果では、全国比+3ポイント以上の学年もあり、基礎学力には一定の向上が見られた。しかし、県版学力状況調査では、県平均を大きく下回るなど、学年によって大きく学力定着に差が見られる。

昨年度は、前年度までの研究を引き継ぎ、研究主題を「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」とし、研究に取り組んできた。学力の土台となる、お互いに認め合い、高め合う学習集団の育成を基礎とし、新学習指導要領の趣旨でもある、『見方、考え方を育む資質、能力ベースの授業づくり』を目指すこと、さらに令和3年度から複式学級が新設されたことにより、学習リーダーを中心に授業を展開していく、より主体的な学びに高めていきたいと考え、サブテーマを「見方、考え方を働かせ、主体的な学びにつなげる授業づくり(算数科を通して)」として授業スタンダードの徹底を図った。

その成果として、本校の授業スタンダードの定着、学習リーダーを中心に児童の対話を大切にした授業づくりの形が全校統一したものになってきた。しかし、自力解決で自分の考えを表すことが難しかったり、自力解決の結果を上手に友達に伝えることができなかったりする児童も多く、「とも学び」で学習が深めることには課題が残った。昨年度末の高知県学力定着状況調査や標準学力調査(CRT)においても、全校平均+3ポイント以上を到達目標としていたが、全学年達成とはならない結果となった。検証をもとにした更なる授業改善として、「ひとり学び」で自分の考えを持ち、友達に伝える力を確かなものにしていくことが、「とも学び」充実につながると考え、本年度は研修主題を【伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成～自分の考えを持ち、とも学びの充実を図る～】として、基礎学力の向上と、さらなるとも学びの充実を目指した授業改善を図るための研究を進めていく。また、昨年度の課題として挙げられた、より効果的なICT活用の研究も継続して行っていく。

## 3. 研究の進め方と方法

### \* 研究組織



\* 研究日・・・毎週水曜日(14:40～16:45)  
毎月第1週…職員会

ハート委員会(学級の実態報告と気になる児童の実態把握)

第2～4週…校内研、教材研究、授業研究

\* 校内研究授業・・・1, 2, 3, 4, 5年は算数、6年は道徳、あすなろ、なかよしは公開授業

\* 授業チェックシートを活用し、授業改善に役立てる。(児童・授業者・参観者)

## 4. 具体的な取組

### (1) 基礎学力の向上

#### ① 帯タイムの見直し

- ・ 朝会 読書タイムの5分間でタイピング練習
- ・ 基礎学力タイム 新出漢字・漢字の習熟
- ・ 計算タイム 下校時に四則計算練習

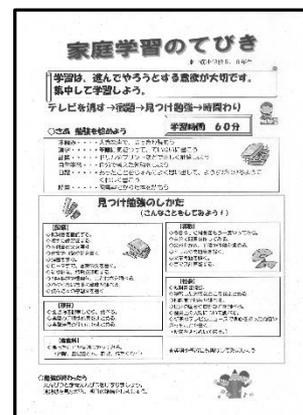
#### ② 放課後の加力指導

- ・ 課題改善問題に取り組む。

※地域の方1名が高学年に入り補助

#### ③ 家庭学習

- ・ 家庭学習の手引きの活用(今年度改定)



- ・自主学習のノート交流を行う

## (2) 授業改善

### ①授業スタンダード

- ・ひがなか授業スタンダード
- ・学習セットの活用
- ・板書の工夫
- ・ノートと板書の一体化

### ②授業研究

- ・授業研究の流れの確認
- ・主体的に学び、自分の考えを持つことができるひとり学び
- ・考えを深め、高め合うとも学び
- ・つながる研究協議

○協議の視点を明確にする

○次回への課題を決定し、全体で取り組み検証する

○協議後、授業者がまとめる

### ③ノート指導

- ・学びの見えるノートの指導の提案と実践(全校で統一)
- ・学習の跡が見えるノート作りの指導を行う。

### ④板書の工夫

- ・ノートと一体化
- ・色の工夫

### ⑤ICTの効果的活用

- ・タブレット研修
- 月1回以上校内研の中で研修(情報教育担当)
- 実践事例の情報交換
- 他校の授業参観・他校へ授業参観をしに行く。



研究授業後の協議で決定した、  
全校で取り組む内容を職員室  
後方に掲示

## 5. 成果と課題

○成果 ●課題 ◎次年度に向けて

### 1, 研究授業、指導案、ブロック研、事後研の持ち方、評価の仕方 等

○研究授業は、算数科と道徳(1本)、の取り組みで良かった。

○事後研修でも、協議の視点があるので、話しやすく全体での深まりがあるように感じる。また、次に、つながる話し合いもできて、学校全体の取り組みとしても明確になっている。

●事前研で、何を授業で取り組んでいくのか確認したが、実践できていないところもあった。今までの研究授業で取り組んできたことが日々の授業の中にあるべきなのに、取り入れることができていなかったときがあった。

◎評価については、児童の評価と教師側(参観者)の評価、授業者のずれを検証しても良いのではないか。そこで、課題が見えてくるのでは・・・。

◎事後研の段階で、指導案の改善点まで、朱書きなどで修正・加筆して授業者が最終的に整えたものを掲示場などに掲げ、全体で確認する。

### 2. ICT活用について

○活用が増えた。「とりあえず使ってみる。」ができた。

○音声入力や写真は特に書くことが苦手な児童にとっては、効果的だった。

○研修の中で提案や情報交換をすることができ、新しいことを学べる良い機会となった。

○児童全員がジャムボード、写真、を使い自分の考えを発表出来た。

●各学年で、ここまでできるようになるという姿を明確にし、各学年があがるにつれてつながりが見えてくるようになると支援や指導がしやすくなるのでは・・・

●ICTの活用について、昨年度より使用率は上がっているが、定期的に校内研で行うことができなかったため、今後はじめの5分に必ず設定すると思った。